

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和8年(2026年)

4-5月号

(通巻 223号)

2026年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

撮影日:2025年5月8日 撮影地:市川市動植物園

ジャコウアゲハ
満開のエゴノキにやってきました。
市内では、幼虫の餌のウマノスズクサがある場所を中心にみる事ができます。

P1 ☀️ いきもの写真館
ジャコウアゲハ

P2 / 3 ☀️ センサーカメラを使った調査-1
調査の概要

P4 ☀️ 花を透明にして観る
ジロボウエンゴサク

P5 ☀️ 市川自然のトピックス
長田谷津のコムラサキ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
イソヒヨドリと春の花

P6 ☀️ ミニ解説 市川市域
谷津の景観

P7 ☀️ わたしの観察ノート
1~2月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



調査の概要

自然博物館では、隣接する長田谷津（大町公園自然観察園）にセンサーカメラ（自動撮影装置）を設置して野生動物の調査を行っています。目視による観察と異なり24時間無人で観察できるため、哺乳類・鳥類について多くの情報が収集できました。これまでの調査結果について報告します。

調査方法

・カメラ設置期間

2019年2月27日から2026年2月9日

※調査はその後も継続中

・カメラ設置場所

長田谷津（大町公園自然観察園）の西側斜面林内2か所

※2019年2月27日～2019年3月14日までは動物園内ザリガニ釣り場に試験設置。

2019年3月15日から本稼働

・カメラ設置場所の状況

1か所は斜面の肩の位置で、肩の縁線に沿って伸びる踏み跡に向けて設置しました（地点名：けもの道）。もう1か所は斜面の谷底で、長田谷津の谷から分かれる枝谷の谷底に設置しました。プラスチック製の白い大型バットを置き、中に水を満たし、アスファルトの塊を陸地として置き、そこにカメラを向けました（地点名：水場）。

・カメラ設置頻度

2019年3月15日～2019年12月13日までは、1か所ずつ交互に設置。2019年12月13日からは2か所同時に設置。

・延べ撮影日数

約4,500日

※期間中、設置できなかった期間や動作不良だった期間があったので、単純計

算では延べ4,789日ですが、それを概数に丸めました。

・撮影パターン

1回の撮影は1分間とし、その後30秒はカメラが感知しても撮影しない設定にしました。バッテリーを節約するためです。

・撮影モード

動画のみの設定にしました。日中はカラー撮影、夜間は赤外線フラッシュによる白黒撮影です。

調査結果

・撮影動画数

哺乳類 10,152ファイル
鳥類 8,235ファイル
その他 23ファイル

・写った種数

哺乳類 8種

※ネズミ類は動画での同定がむずかしいのでネズミ類として1種扱い

鳥類 37種

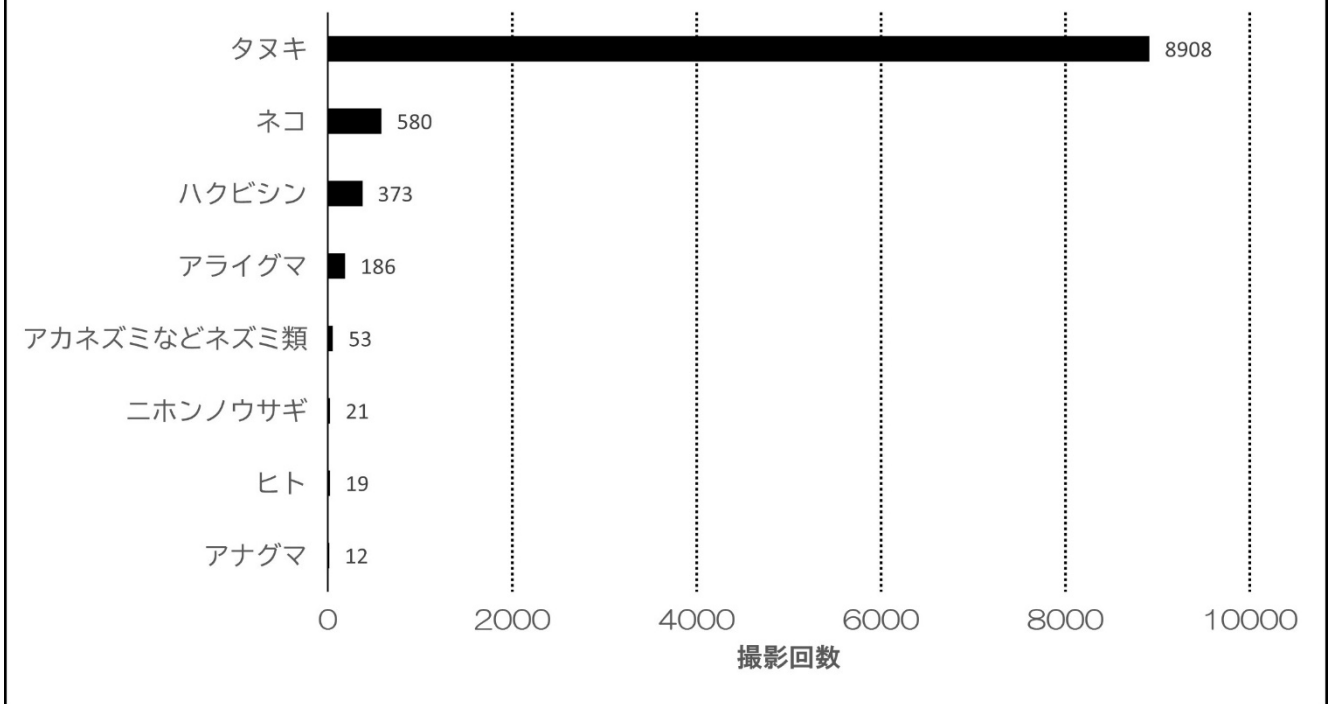
※シジュウカラなどの混群は1種扱い

その他 13種

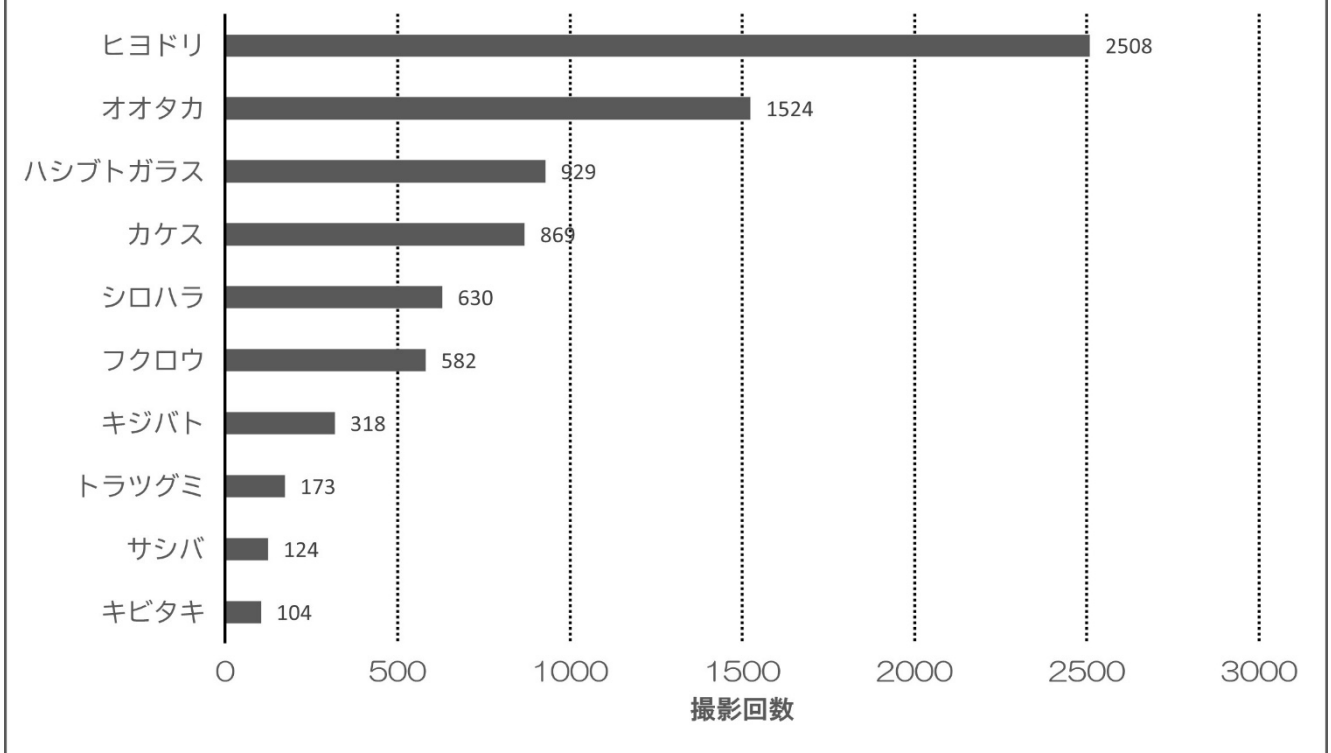
※スズメバチ類やカブトムシ、アオダイショウ、オオゲジなど。光る眼だけや不明の声だけでも1種扱い。

◎ 右ページ：鳥類・哺乳類内訳

哺乳類撮影回数



鳥類撮影回数上位10種



花を透明にして観る*****

ジロボウエンゴサク

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしましますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしましますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



ジロボウエンゴサクの花

- ・花は細長い筒型。ホトケノザのように片端から花が始まるのではなく、花茎から前後に花が延び、前方が開口部、後方が袋状になっている。袋の部分を経(きょ)と呼ぶ。
- ・花弁(花びら)は外2枚、内2枚あり、上下に位置する外側の2枚がくっついて筒形の花を形成している。そのため、開口部では花弁が上下に開いている。
- ・花の内部を花茎の付け根から開口部に伸びているのが雌しべで、内側の花弁は、この雌しべを薄皮のように包んでいる。
- ・雄しべは写真では見えないが、花を分解して観察すると、見かけ上は2本で、雌しべを包む内側の花弁と一体化している。

市川自然のトピックス

長田谷津のコムラサキ

コムラサキとは

コムラサキは、日本の国蝶として有名なオオムラサキを小さくしたようなチョウです(図1)。幼虫の食草であるヤナギ類がある川沿いや湿地の周辺で見ることができます。成虫は花ではなく、樹液に飛来します。また、幼虫で越冬する生態が知られています。1cmほどの小さな幼虫が、木の幹や枝の付け根に張り付き、冬の寒さを耐えしのぐのです。

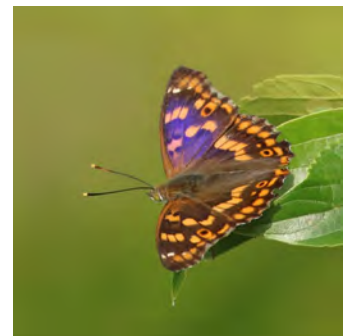


図1. コムラサキのオス
(2024年5月22日 印西市)
市川市では江戸川周辺や
北部地域などで見られます

散策会で大活躍！コムラサキの幼虫

2024年2月、長田谷津(大町公園)のシダレヤナギが雪の重みに耐えられず、地上から3mほどの場所でバキッと折れました。このシダレヤナギにはコムラサキが産卵に来ていましたが、樹高が10m以上と高く、幼虫の観察はできませんでした。折れたヤナギは安全確保のために、細かく切り、搬出される予定でしたが、幹や枝に越冬幼虫がついている可能性が高かったため、細かくしたものを、搬出せずに根元に積んでもらいました(図2)。作戦は大成功！越冬幼虫は無事に生きている枝葉にたどりついたようで、春になると、葉に大きな幼虫(図4)が何匹もついていました。その後も継続して観察できており、簡単ではないですがコムラサキの生活史の一部(図3~5)を垣間見ることができるようになりました。月に一度の長田谷津散策会では大活躍で、参加者の方々との幼虫探しは、大盛り上がりです。



図2. 折れたシダレヤナギ
根本に折れた幹を積んであります
(2024年5月17日)

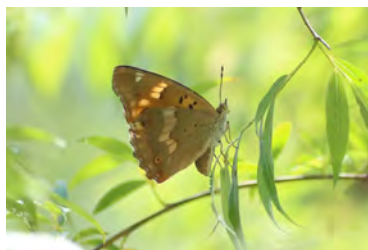


図3. 産卵中のメスと卵
(2025年6月7日)

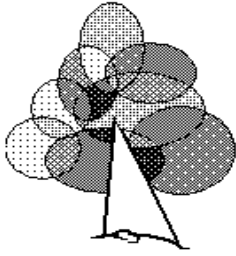


図4. 立派な終齢幼虫
(2024年5月23日)



図5. 枝の付け根や幹の割れ目に潜む越冬幼虫たち
冬の長田谷津散策会では越冬幼虫探しが、恒例行事になっています
(2024年12月20日)

※図. 2-5 全て長田谷津で撮影



イソヒヨドリと春の花

2月20日、朝5時、京成八幡駅の踏切の側の、ラーメン店の照明に、2羽のイソヒヨドリがいました。よく通る声で、鳴いていました。3月11日、大柏橋で信号待ちをしている時、イソヒヨドリが、地面に降りてきました。JR本八幡駅周辺の、ビルの屋上にいるのを、よく見かけますが、市川市の内陸部へも、来るようになったのでしょうか。

バス通りのクスノキに、「枯れの症状が見られるので、伐採します。ご理解ください」と貼り紙がありました。クスノキに限らず、たくさんの花、葉、ギンナンなどの実で、根の状態によっては、支えきれず倒れて、事故になるので、早めの、判断、対処はありがたいです。

八幡では、玄関先や庭の、植えられた

木の花が咲いています。ミモザ・マンサク・コブシ・ハクモクレンなどです。本北方の、子之神社のコブシを見たくて、歩いて行きました。途中、アセビ・ユキヤナギ・オウバイが咲いていました。子の神西公園は、土の部分が多く、ヒメオドリコソウ・ホトケノザ・オオイヌノフグリ・カラスノエンドウ・ナズナ・ミミナグサの仲間が咲いていました。農地らしき空き地が、遠目で紫色に見えました。ホトケノザが一面に咲いていました。

大柏川は、上流から下流へ、富貴島小学校の北側の真間川では、西から東へ、ものすごい勢いで流れていくのが見えました。川の水が、海の引き潮の影響で、動いているのを見ると、春の大潮かなと思いました。

(M.M.)

≡ 二角平言完 No.7

市川市域

谷津の景観

写真は、長田谷津の谷を下流から上流に向けて撮影したものです。中央に平らな草原が広がり、両側は奥に向かって林が延びています。地形的には中央が平らな地面、両側の林のところは坂（斜面）、この坂を登ると上にはまた平らな地面が広がっています。坂の上の平らな地面が下総台地です。前回紹介したように下総台地に刻まれた谷が谷津なのですが、その谷底も写真のように平らなので、実際には平らな地面が上下2段あって、それを坂（斜面）がつかないでいるように見えます。

市川市域では都市化が進んで谷津の景観や地形はわかりにくくなりましたが、長田谷津には谷津本来の景観が残されています。



わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・寒い日でしたが、日差しがあったので谷津の中は暖かでした(1/8)。ムラサキツバメが飛び、葉の上で翅を広げてくれました。
- ・中央水路にクレソンが茂り始め、オオフサモと一緒に流れを阻害するようになりました。滞留はスナヤツメにもアオカワモヅクにもよくないので、取り除きました(1/11)。外来種だからではなく滞留を起こすからなので、セリやカワヂシャでも同じことを行います。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・雪が降り積もる観察園を一回りしました(2/8)。積もった雪で真っ白ですが、斜面林の下の湧水周辺では水温が高いので、雪が積もりません。そういった場所に地上で採食することの多い鳥たちが集まっていました。とくにトラツグミは狭い範囲で2羽いて、よく目立ちました。
- ・ニホンアカガエルの卵塊の数をカウントに行きました(2/26)。2月17日から最低でも48個産み足されていて、合計で135卵塊になりました。

◆動物園より

- ・たわわに実ったクロガネモチに、40羽ほどのヒヨドリがひっきりなしにやってきて、実をついばんでいました(1/27)。見ていると、どんどん実がなくなっていました。ヒヨドリにとって木の上の安全な方にある実が人気でほとんど食べられていて、下の方はまだたくさんついていました。(翌日にはなくなっていました)

以上 稲村優一

◆国府台緑地より(2/15)

- ・林内の整備作業に参加しました。大きなシラカシの下を掃くと、どんぐりがいっぱい出てきました。周りを見ると、シラカシの実生が一面に生えていました。
- ・大きなイヌシデに、カラスの巣がありました。木々が多い国府台緑地の中だけあって、針金ハンガーは見えず、すべて木の枝でできていました。

◆国府台より

- ・大きなメタセコイアに、茶色い房のようなものがたくさんぶら下がっていました(2/14)。肉眼ではよくわからなかったのですが、撮影してパソコンで拡大して見ると、粒々の集まりでした。調べると、メタセコイアの雄花ということでした。この時期のメタセコイアはまったくノーマークでしたので、初めて気づきました。

◆鬼高より

- ・小学校の中で自然観察をしました(2/5)。ビワの花に来たメジロを見た子どもたちはスイッチが入って、ほかにも探していました。見つけた、と言って来てくれた子どもたちの報告は「茶色、オレンジ、白、黒」でした。スズメ?とっていると、枝先にジョウビタキの雄が止まりました。報告はすべて正しいものでした。

以上 金子謙一

雪は2回降りましたが、すぐ溶けてしまいました。1月下旬から2月上旬は厳しい寒さで、湿地の土が凍るほどでした。その後は春の暖かな日が多くありました。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入力いただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、大町公園の自然観察園のももとの呼び名です。

○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前
午前10時

解散：集合と同じ場所で
午前11時30分

	長田谷津 散策会	湿地 環境整備	スナヤツメ レスキュー	ホトケドジョウ レスキュー
4月	11日（土）	26日（日）	5日（日）	12日（日）
5月	17日（日）	30日（土）	16日（土）	31日（日）
6月	6日（土）	28日（日）	7日（日）	27日（土）
7月	12日（日）	おやすみ	おやすみ	おやすみ
8月	8日（土）	おやすみ	おやすみ	おやすみ

○湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか（要問合せ・荒天中止）

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。

たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は・・・お電話で博物館までお問合せください。

○絶滅危惧種の保全活動（荒天中止）

詳しくはホームページをご覧ください

・スナヤツメレスキュー

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

・ホトケドジョウレスキュー

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

第39巻 第1号（通巻第223号）

令和8年4月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会教育振興部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477